第３小委員会

数　　学

別紙様式２

報　告　書

令和６年７月 24 日

第 12 地区教科書採択教育委員会協議会長　福　地　　隆　様

第 12 地区教科書採択調査委員会第３小委員会委員長　野　村　　勉

先に諮問のあった令和７年度から使用する中学校用教科用図書について、数学の教科書見本本の調査研究結果を次のとおり報告します。

記

１　調査研究の経過

第１回調査委員会（７月１日）

(1)　配付された７者の教科書について、調査研究の観点や手順を協議した。

(2)　各者の教科書を調査研究し、次回の選定委員会での検討資料とすることを確認した。

第２回調査委員会（７月 11 日）

(1)　調査研究の観点や手順に基づいて作成した調査研究資料について協議した。

(2)　報告書作成のための準備を行い、次回の調査委員会での協議内容を確認した。

第３回調査委員会（７月 19 日）

(1)　作成してきた報告書について、作成の趣旨に基づき協議した。

(2)　配付された７者の教科書について、報告書を作成した。

２　調査研究の方法

発行者から送付された教科書見本本について、以下の調査研究の観点に基づき、「教科書編修趣意書」及び北海道教育委員会が作成する「採択参考資料」を参考として行った。

ア　「取扱内容」について

・学習指導要領の総則及び各教科の目標、内容及び学年・分野・領域等の目標、内容等に基づいて、正確、適切に取り上げられているか。

イ　「内容の構成・排列・分量等」について

・内容の構成が、地域の実態や生徒の生活経験及び興味・関心などに配慮されているか。

・内容の排列が、学年の発達段階に応じて、体系的、発展的に組織されているか。

・内容の分量が、各分野や領域ごとに適切におさえられているか。

ウ　「使用上の配慮等」について

・生徒の学習意欲を高める工夫がなされているか。

・自ら課題解決に取り組み、主体的に学習に取り組めるよう工夫されているか。

・目次、索引、注、諸表など、使用上の便宜は配慮されているか。

３ 見本本の総合所見

(1) 東京書籍　「新編　新しい数学～MATH CONNECT　数学のつながり～」

・「主体的・対話的で深い学び」の実現に資する学習への対応では、第１学年の文字式の利用の学習において、課題を設定し、見通しをもたせるとともに、本棚をつくるのに必要な棒の本数の求め方を考えたり、図に表した求め方を式に表して、説明したりするなどの学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。

・「使用上の配慮等」では、「節の導入」「〇〇の利用」では、生徒の身の回りにある題材を扱ったり、MATH CONNECT として、「数学」と「数学・身のまわり・社会」とのつながりを示し、数学の有用性を実感できるようにしたりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。

(2) 大日本図書　「数学の世界」

・「主体的・対話的で深い学び」の実現に資する学習への対応では、第３学年の二次方程式の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、二次方程式の解き方が正しいかどうかを判断したり、二次方程式の「３つの解き方」について、それぞれの特徴や気付いたことを説明したりするなどして、考えを広げたり深めたりする学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。

・「使用上の配慮等」では、章や項の導入、利用の場面では、学習する課題の題材を身近なものから選択したり、「MATHFUL（マスフル）」として、数学の歴史や数学者、美術や音楽などの芸術分野との関わりを紹介したりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。

(3) 学校図書　「中学校　数学」

・「主体的・対話的で深い学び」の実現に資する学習への対応では、第１学年の比例と反比例の利用の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、消毒用アルコールが何日後になくなるかについて話し合ったり、求め方を式やグラフを使って説明したりするなどして、考えを広げたり深めたりする学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。

・「使用上の配慮等」では、各章・各節のはじめに「疑問を発見する」ページを設定し、身のまわりの生活や数学の学習の中から疑問を発見できるようにしたり、章末の「できるようになったこと・さらに学んでみたいこと」では、自己評価を行うことができるようにしたりするなど、生徒が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。

(4) 教育出版　「中学数学」

・「主体的・対話的で深い学び」の実現に資する学習への対応では、第３学年の三角形と比の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、四角形の各辺の中点を結んでできる四角形について調べたり、条件を変えて調べた結果について話し合ったりするなどして、考えを広げたり深めたりする学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。

・「使用上の配慮等」では、「〇章を学習する前に」や「もどって確認」で、適宜、既習内容を振り返ることができるようにしたり、学習感想を書かせる場面を設け、振り返って評価・改善できるようにしたりするなど、生徒が主体的に

学習に取り組むことができるような工夫がなされている。

(5) 啓林館　「未来へひろがる数学」

・「主体的・対話的で深い学び」の実現に資する学習への対応では、第１学年の文字式の利用の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、数あてマジックのしくみを考えたり、問題解決の過程を振り返って、気付いたことやもっと調べてみたいことを話し合ったりするなどして、考えを広げたり深めたりする学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。

・「使用上の配慮等」では、学習の導入で日常の事象を取り上げたり、生活と関連付けて学習に取り組めるようにしたり、「学習のとびら」では、学ぶ楽しさや意義を実感できるよう、その節の学習を進めれば解決できる身のまわりの問題などを取り上げたりするなど、生徒の学習意欲を高めたり、日々の生活につながる工夫がなされている。

(6) 数研出版　「これからの　数学」

・「主体的・対話的で深い学び」の実現に資する学習への対応では、第３学年の二次方程式の利用の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、条件に合う道をつくるために、花を植える土地の面積を１つの式で表したり、求めた値に合わせて、図を考えたりするなどして、考えを広げたり深めたりする学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。

・「使用上の配慮等」では、数学の有用性が感じられるように、学んだ内容を活用して解決するタイプの TRY を各所に設けたり、「考えよう」「調べよう」など、活動的な話題や数学に関する職業について紹介するページを設けたりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。

(7) 日本文教出版　「中学数学」

・「主体的・対話的で深い学び」の実現に資する学習への対応では、第３学年の式の展開と因数分解の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、根拠を明らかにするために目的に合うように式を変形したり、条件を変えてつくった新しい問題を考えたりするなどして、考えを広げたり深めたりする学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。

・「使用上の配慮等」では、巻頭に「主体的に学習に取り組む態度」とはどのような態度なのかが生徒や保護者にも分かるように、具体例とともに明示したり、各章で、数学のよさについて考える活動や数学を生活や学習に生かす活動を適宜設けたりするなど、生徒が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。

別紙様式１

番号 ＼ 観点	発行者の番号・略称	使用学年	教科書の記号・番号	教　科　書　名
	２・東書	第１学年 第２学年 第３学年	数学・002-72 数学・002-82 数学・002-92	新編 新しい数学1 ～MATH CONNECT　数学のつながり～ 新編 新しい数学2 ～MATH CONNECT　数学のつながり～ 新編 新しい数学3 ～MATH CONNECT　数学のつながり～
取扱内容	○　数と式については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ・運動場のトラックにセパレートコースを作る際のスタート地点の差を求める学習活動（第２学年）、２つの続いた奇数の積に１を加えるとどのような数になるかを予想し、証明したり、ロープで囲んだ長方形の面積を調べたりする学習活動（第３学年）など。 ○　図形については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ・ロボットがしゃがむ動作を行うとき、状態を安定させるためのしくみを考え、式で表現する学習活動（第２学年）、写真に黒板の両端がぴったりと入るカメラの位置を予想したり、その関係性を調べたりする学習活動（第３学年）など。 ○　関数については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ・保冷パックに入れたペットボトル飲料水を 10℃以下に保てる時間を予想する方法を考える学習活動（第２学年）、斜面を転がる球の転がり始めてからの時間と転がった距離の関係を表、式で調べたり、ブレーキ痕が 25ｍのときの自動車の走行時の速さを表やグラフなどを用いて推測し、説明する学習活動（第３学年）など。 ○　主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 ・文字式の利用の学習において、課題を設定し、見通しをもたせるとともに、本棚を作るのに必要な棒の本数の求め方を考えたり、図に表した求め方を式に表して、説明したりするなどして、考えを広げたり深めたりする学習活動（第１学年）。			
内容の構成・排列 分量等	○　内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。 ・整数の性質の学習において、自然数や素数について学習し、自然数の範囲で考える素因数分解をする学習の後に、負の数の学習を扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫（第１学年）がなされている。 ・二次方程式とその解き方の学習において、平方根の考えによる解法の学習の後に、因数分解を利用した解法の学習を扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫（第３学年）がなされている。 ○　内容の分量については、次のようになっている。 ・第１学年　総ページ 324 ページ、前回より約４％増。			
使用上の配慮等	○　「節の導入」「○○の利用」では、生徒の身の回りにある題材を扱ったり MATH CONNECT として、「数学」と「数学・身の回り・社会」とのつながりを示し、数学の有用性を実感できるようにしたりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○　「Q（考えてみよう・調べてみよう）」では、「補助発問」を手掛かりに既習を生かすことができたり、章の問題Ａに章で働かせた見方・考え方をまとめる「章のふり返りレポート」を新設したり、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○　文節のまとまりなどの読みやすい位置で改行したり、カラーユニバーサルデザインの徹底や小さい文字にユニバーサルデザインフォントを採用したりするとともに、１人１台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載するなど、使用上の便宜が図られている。			
その他	○　北海道の素材を第１学年６箇所、第３学年３箇所取り扱っている。 ※　中学校用教科書目録（令和７年度使用　文部科学省）による ○　学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。 ○　発展的な学習内容を第２学年７ページ、第３学年６ページ取り扱っている。			

様式１

番号 ＼ 観点	発行者の番号・略称	使用学年	教科書の記号・番号	教　科　書　名
	４・大日本	第１学年 第２学年 第３学年	数学・702 数学・802 数学・902	数学の世界１ 数学の世界２ 数学の世界３
取扱内容	○　数と式については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ・各地の最高気温と最低気温について調べたり、天秤で釣り合う場合のおもりの重さを求めたりする学習活動（第１学年）、正方形の面積から１辺の長さを考えたり、「数当てゲーム」を行い、相手が選んだ数を考えたりする学習活動（第３学年）など。 ○　図形については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ・卒業生が校庭にタイムカプセルを埋めた地点を求めたり、身のまわりの立体をグループ分けしたりする学習活動（第１学年）、校舎の高さを直接測らずに求める方法を考えたり、「さしがね」を使って丸太の中心を求める方法を考えたりする学習活動（第３学年）など。 ○　関数については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ・秒速３ｍで走る選手の４秒前や４秒後の地点を調べたり、容器に水を入れたときの満水になるまでの水量と時間の関係を調べたりする学習活動（第１学年）、満水になるまで一定の割合で水を入れていくときの時間と水面の高さを調べたり、標高と気温の関係から、富士山の気温を予想したりする学習活動（第２学年）など。 ○　主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 ・二次方程式の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、二次方程式の解き方が正しいかどうかを判断したり、「３つの解き方」について、それぞれの特徴や気づいたことを説明するなどして、考えを広げたり深めたりする学習活動（第３学年）。			
内容の構成・排列 分量等	○　内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。 ・三角形の学習において、二等辺三角形の基本的な性質を三角形の合同条件で証明する学習の後に、逆や反例を使って表現する学習を扱うなど、系統的・発展的に学習ができるような工夫（第２学年）がなされている。 ・二次方程式の学習において、因数分解による二次方程式の解き方の学習の後に、平方根の考えを使った二次方程式の解き方の学習を扱うなど、系統的・発展的に学習ができるような工夫（第３学年）がなされている。 ○　内容の分量については、次のようになっている。 ・第１学年　総ページ数 324 ページ、前回からの増減はない。			
使用上の配慮等	○　章や項の導入、利用の場面では、学習する課題の題材を身近なものから選択したり、「MATHFUL（マスフル）」として、数学の歴史や数学者、美術や音楽などの芸術分野との関わりを紹介したりするなど、学習意欲を高める工夫がなされている。 ○　項の導入には「考えよう」を設置し、問題や疑問を見いだすことができるようにしたり、数学の有用性に気付くことができるよう、学んだことを振り返ることを促す質問を設けたりするなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○　重要な部分を強調したレイアウトの工夫やユニバーサルデザインフォントの使用、小学校算数から高等学校数学の教科書へのギャップを軽減する文字サイズへの配慮、１人１台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載するなど、使用上の便宜が図られている。			
その他	○　北海道の素材を第１学年６箇所、第２学年２箇所、第３学年３箇所取り扱っている。 ※　中学校用教科書目録（令和７年度使用　文部科学省）による ○　学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。 ○　発展的な学習内容を第３学年 14 ページ、第１・２学年４ページずつ取り扱っている。			

別紙様式１

番号 ＼ 観点	発行者の番号・略称	使用学年	教科書の記号・番号	教　科　書　名
	11・学図	第１学年 第２学年 第３学年	数学・011-72 数学・011-82 数学・011-92	中学校 数学 1 中学校 数学 2 中学校 数学 3
取扱内容	○　数と式については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ・天秤を使って重さの関係性を調べたり、天秤で釣り合う場合のクリップの重さを求めたりする学習活動（第１学年）、11 枚つづりの遊園地のチケットを使い切った場合の乗り物の乗り方を考える学習活動（第２学年）など。 ○　図形については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ・ダンボール箱の開いてる部分の四角形の対辺がいつでも平行になっていることを証明する学習活動（第２学年）、コンパスや分度器を使って、海上での船の位置を求める方法を考えたり、説明したりする学習活動（第３学年）など。 ○　関数については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ・水そうに水を入れてからの時間と水位の関係を調べたり、数の範囲を負の数まで広げたときの数量の関係について話し合ったりする活動（第１学年）、標高と気温の関係から富士山の頂上の気温を予想したり、水を熱し始めてからの時間と温度の関係をグラフで調べたりする学習活動（第２学年）など。 ○　主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 ・比例と反比例の利用の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、消毒用アルコールが何日後になくなるかについて話し合ったり、求め方を式やグラフを使って説明したりするなどして、考えを広げたり深めたりする学習活動（第１学年）。			
内容の構成・排列 分量等	○　内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。 ・正の数、負の数の学習において、符号のついた数の学習の後に、自然数の範囲で素因数分解をする学習を扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫（第１学年）がなされている。 ・二次方程式の学習において、因数分解を使った解き方の学習の後に、平方根の考えを使った解き方の学習を扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫（第３学年）がなされている。 ○　内容の分量については、次のようになっている。 ・第３学年　総ページ数 330 ページ、前回より約６％増。			
使用上の配慮等	○　節の導入で新しい学習内容への興味・関心が得られるよう、身近な教材を扱うとともに、話し合い活動を取り入れるため、「Ｑ」や「数学へのいざない」を設け、章の内容を深めたり広げたりする興味深い事象を提示するなど、学習意欲を高める工夫がなされている。 ○　各章・各節のはじめに、「疑問を発見する」ページを設定し、身のまわりの生活や数学の学習の中から疑問を発見できるようにしたり、章末では、自己評価を行うことができるようにしたりするなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○　文章を文節改行にすることで読みやすくし、カラーユニバーサルの観点を取り入れ、目に優しく判別のしやすい色使いにするとともに、１人１台端末を活用した学習活動として、二次元コードで丁寧な説明を加えたりするなど、使用上の便宜が図られている。			
その他	○　北海道の素材を第１学年９箇所、第２学年６箇所取り扱っている。 ※　中学校用教科書目録（令和７年度使用　文部科学省）による ○　学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。 ○　発展的な学習内容を第３学年 11 ページ、第２学年９ページ取り扱っている。			

別紙様式１

番号 ＼ 観点	発行者の番号・略称	使用学年	教科書の記号・番号	教　科　書　名
	17・教出	第１学年 第２学年 第３学年	数学・017-72 数学・017-82 数学・017-92	中学数学１ 中学数学２ 中学数学３
取扱内容	○　数と式については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ・貸し出した本の冊数の平均値を基準との差を考えることで工夫して求めたりする学習活動（第１学年）、バスケットボールの３点シュートと２点シュートの本数を求めたりする学習活動（第２学年）など。 ○　図形については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ・ステンドグラスを図形とみなして、直線が交わってできる角について考えたりする学習活動（第２学年）、丸太から一定の条件を満たす角材を切り出すために必要な丸太の大きさを求めたりする学習活動（第３学年）など。 ○　関数については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ・水そうに水を入れ始めてからの時間と水の深さの関係を調べたり、数の範囲を負の数に広げ、比例と反比例の性質やグラフの特徴を考えたりする学習活動（第１学年）、斜面を転がる球の転がり始めてからの時間と転がった距離の関係を表、式で調べたりする学習活動（第３学年）など。 ○　主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 ・三角形と比の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、四角形の各辺の中点を結んでできる四角形について調べたり、条件を変えて調べた結果について話し合ったりするなどして、考えを広げたり深めたりする学習活動（第３学年）。			
内容の構成・排列 分量等	○　内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。 ・整数の見方の学習において、自然数の範囲で考える素数と素因数分解についての学習の後に、数の範囲を広げ負の数の学習を扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫（第１学年）がなされている。 ・二次方程式とその解き方の学習において、因数分解を利用した解法の学習の後に、二次方程式の解の公式による解法の学習を扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫（第３学年）がなされている。 ○　内容の分量については、次のようになっている。 ・第１学年　総ページ数 346 ページ、前回より約４％増。			
使用上の配慮等	○　「大切にしたい数学的な見方・考え方」で、数学的な見方・考え方を既習内容の具体例を基に紹介したり、数学の有用性を感じられるよう、実社会や生活、先端テクノロジーなどに関する話題を取り上げたりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○　「○章を学習する前に」や「もどって確認」で、既習内容を振り返ることができるようにしたり、学習感想を書かせる場面を設け、振り返って評価・改善できるようにしたりするなど、生徒が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○　UD フォントを多くの箇所で使用したり、読みやすい改行や、余白を生かしたレイアウトなど、落ち着いて学べる紙面づくりに配慮したりするとともに、１人１台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載するなど、使用上の便宜が図られている。			
その他	○　北海道の素材を第１・２学年６箇所、第３学年３箇所取り扱っている。 ※　中学校用教科書目録（令和７年度使用　文部科学省）による ○　学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。 ○　発展的な学習内容を第３学年 11 ページ、第２学年６ページ取り扱っている。			

別紙様式１

番号 ＼ 観点	発行者の番号・略称	使用学年	教科書の記号・番号	教　科　書　名
	61・啓林館	第１学年 第２学年 第３学年	数学・061-72 数学・061-82 数学・061-92	未来へひろがる数学１ 未来へひろがる数学２ 未来へひろがる数学３
取扱内容	○　数と式については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ・トランプのスペードとクローバーを正の点数、ハートとダイヤを負の点数としてゲームをする学習活動（第１学年）、カレンダーで、横に並んだ３つの整数の和がどのような数になるか予想し、説明したりする学習活動（第２学年）など。 ○　図形については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ・建築物の写真を見てそれぞれの四角形にどんな特徴があるか調べる学習活動（第２学年）、校舎の高さを求めるために、太陽光線で校舎にできた影の長さと人間の影の長さに相似な関係を見出して求める学習活動（第３学年）など。 ○　関数については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ・１枚の厚紙から小物入れ（箱）をつくるとき、四つ端にある切り取る正方形の１辺の長さを変えることで、どんな数量になるかを調べる学習活動（第１学年）、自動車が停止するまでの制動距離が $y=ax^2$ で表せることについて QR コードを読み込み、動画で視覚的に直感的に理解できる学習活動（第３学年）など。 ○　主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 ・文字式の利用の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、数あてマジックのしくみを考えたり、問題解決の過程を振り返って、気付いたことやもっと調べてみたいことを話し合うなどして、考えを広げたり深めたりする学習活動（第１学年）。			
内容の構成・排列 分量等	○　内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。 ・証明とそのしくみの学習において、証明を記述する前に見通しを立てる学習の後に、証明の意味を考える学習を扱うなど、一連の流れを順番に示すことで系統的・発展的に学習できるような工夫（第２学年）がなされている。 ・二次方程式とその解き方の学習において、平方根の考えによる解法の学習の後に、解の公式を利用した解法、因数分解を利用した解法の学習を扱うなど、多様な解法に触れて系統的・発展的に学習できるような工夫（第３学年）がなされている。 ○　内容の分量については、次のようになっている。 ・第３学年　総ページ 282 ページ、前回より約 12%減。			
使用上の配慮等	○　学習の導入で日常の事象を取り上げ、生活と関連付けて学習に取り組めるようにしたり、「学習のとびら」では、学ぶ楽しさや意義を実感できるよう、学習を進めれば解決できる身のまわりの問題を取り上げたりするなど、生徒の学習意欲を高めたり、日々の生活につながる工夫がなされている。 ○　これまでに学んだことを基にして考え、予想して、新しい学びにつなげる「ひろげよう」を設定したり、自らの学習を調整しながら学べるコーナー「数学広場」を設けたりするなど、生徒が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○　文章の改行をすべて文節で行ったり、書体は識別がしやすい UD フォントを採用し、配色は色覚の特性によらず学びやすいものとなるようにするとともに、１人１台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載するなど、使用上の便宜が図られている。			
その他	○　北海道の素材を第１学年５箇所、第２学年３箇所取り扱っている。 ※　中学校用教科書目録（令和７年度使用　文部科学省）による ○　学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。 ○　発展的な学習内容を第３学年 12 ページ、第１・２学年２ページずつ取り扱っている。			

別紙様式１

番号 ＼ 観点	発行者の番号・略称	使用学年	教科書の記号・番号	教　科　書　名
	104・数研	第１学年 第２学年 第３学年	数学・104-73 数学・104-83 数学・104-93	これからの　数学１ これからの　数学２ これからの　数学３
取扱内容	○　数と式については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ・大縄跳びを飛んだ回数の平均を基準とする値を決めてその値との違いから平均を求めるなど工夫して求めたりする学習活動（第１学年）、クラスの 30 人全員がどこかの班に入るように、職場体験実習の班をつくったりする学習活動（第２学年）など。 ○　図形については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ・２段重ねの工具箱の上の段の箱を支えるためのアームの取り付け方について考えたりする学習活動（第２学年）、円の性質を利用してサッカーのシュートが入りやすい場所を考えたりする学習活動（第３学年）など。 ○　関数については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ・x の変域を負の数まで広げたとき、対応する x と y の値の特徴を考えたりする学習活動（第１学年）、斜面に沿ってボールを転がしたときの時間と転がる距離の関係を表から考えたり、自動車の速さと制動距離の関係を表やグラフを用いて説明したりする学習活動（第３学年）など。 ○　主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 ・二次方程式の利用の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、条件に合う道をつくるために、花を植える土地の面積を１つの式で表したり、求めた値に合わせて、図を考えたりするなどして、考えを広げたり深めたりする学習活動（第３学年）。			
内容の構成・排列 分量等	○　内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。 ・立体の体積と表面積の学習において、立体を構成する要素を整理する学習の後に、おうぎ形の弧の長さと面積を求める学習を扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫（第１学年）がなされている。 ・二次方程式の学習において、「ふりかえり」で既習内容の確認ができるようになっており、因数分解による解き方の学習の後に、平方根の考えを使った解き方の学習を扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫（第３学年）がなされている。 ○　内容の分量については、次のようになっている。 ・第１学年　総ページ数 320 ページ、前回より約 12％減。			
使用上の配慮等	○　数学の有用性が感じられるように、学んだ内容を活用して解決するタイプの TRY を各所に設けたり、「考えよう」「調べよう」など、活動的な話題や数学に関する職業について紹介するページを設けたりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○　身のまわりにある事象から数学を見いだすことができるようにしたり、対話場面を示し、課題に取り組む際にどのようなことに着目すればよいか、一目で分かるようにしたりするなど、生徒が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○　UD フォントを大きめのサイズで用い、カラーユニバーサルデザインの観点から、色覚の特性によらず識別しやすい配色にしたりするとともに、１人１台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載するなど、使用上の便宜が図られている。			
その他	○　北海道の素材を第１学年のみ３箇所取り扱っている。 ※　中学校用教科書目録（令和７年度使用　文部科学省）による ○　学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。 ○　発展的な学習内容を第３学年 12 ページ、第１・２学年２ページずつ取り扱っている。			